

- 1面 ・大型店出店に反対する陳情活動
- 2面 ・陳情書(つづき)
- ・第46回商工会全国大会
- ・融資金利情報、県最低貸金
- ・支所事務局よりお知らせ
- ・「年末調整」準備のお知らせ

編集・発行  
 山梨市商工会  
 会長 野澤重幹  
 山梨市上神内川 120番地  
 TEL 0553(22)0806  
 FAX 0553(23)1529  
 (平成18年12月1日)

# 市郊外に大型店出店計画

～中村市長へ陳情 出店反対！商店街に及ぼす大きな影響～

十月二十日、山梨市商工会執行部は出店が計画されている大型店問題に関し、中村市長へ出店反対の陳情を行いました。  
 (以下が、その内容)

## 陳情書

中村市長さんにおかれましては、市政発展のため日夜ご尽力いただき、「やさらぎ」と活力ある快適住環境都市、「真心」とのまちな山梨市、「づくり」を目指して、様々な社会環境の整備や活力ある産業の創造等を積極的に推進していただいております。改めて感謝を申し上げます。

特に、私も商工会には日頃から商業発展のための財政支援をはじめ、多様なご指導を賜わり、重ねて御礼申し上げます。

さて、山梨市は桃などの収益性の高い果樹栽培の篤農家が多く産業も盛んで、加えて定住人口も隣市を上回るなど、街に活力があつて安心して暮らす事のできる地域であります。このため産業経済においても東山地域のリーダー的役割を担っておりまして、私も商工会もこのよき社会環境を背景に、活力ある街づくりの取り組みに邁進して参つたところであります。

しかしながら、長く厳しい経済不況の影響をまともに受けた私も商工業者、とりわけ市内小売り商店の経営者にとりましては、経営難等に起因する廃業者が後を絶たない状況であり、昨今の国や大企業が言う景気回復動向は、地方にとつては全く乖離したものでありまして、こうした実感のない景気回復にも苦慮しているのが現実であります。

このため私も商工会、商工業者にありましては、全ての経営者が様々な経営環境の重圧にしっかりと対峙し、常に経営への研鑽に努め、日々創意工夫を図りながら懸命な経営努力を続けているところであります。

このようなかで、最近山梨市内において大型店の出店が、二地域に二店舗計画されているとのことでありまして、市内のこうした新規大型店の出現は、市内の既存商圏の調和を図ることからも決して容認されるべきものではないと共に、私も商工会員であります既存商店経営者への影響は甚大であり、商工会においても様々な障害が懸念されるところであります。

中村市長さんにおかれましては、このような状況を十分ご察察いただきまして商業経営者が意欲を持つて経営に専念し安心して暮らすことのできるような街づくりのために、一層のお取り組みをいただますようお願い申し上げます。

また、山梨市駅前地区画整理事業に継続して、駅周辺の整備や中心市街地活性化事業による新たな都市整備など、東山地域の中心都市として、これからの新しい街づくりに特段のご高配を賜りたく、ここに陳情申し上げます。

なお、当面する具体的な要望として、次の二件の大型店出店計画につきましては、私どもの切なる願いを斟酌していただきまして、許可権者への意見に付していただきますよう強く要望いたします。

## 記

- 一、株式会社 さえき  
山梨市七日市場地内
  - 一、株式会社 ベイシア  
山梨市落合地内
- 以上



山梨市長 照 人 殿  
 平成十八年十月二十日  
 山梨市商工会  
 会長 野澤重幹

(要旨)  
 山梨市商工会は、今般、出店計画が想定されている株式会社ベイシア及び株式会社さえき両社の大型店の出店について反対いたします。

(説明)  
 平成十三年、当市落合地区に株式会社ベイシアによる大規模なショッピングセンター出店計画が明らかになり、続いて本年、当市七日市場地区に株式会社さえきの食品SMを核とする大型店計画説明会が、地元区民を対象に開催されております。

両大型店の計画敷地面積は、合計五万四千九百九十三平方メートルと広く、集客力の一要素である駐車台数は約一千台と推計され、店舗面積も合わせて一万五千平方メートル前後と予想されます。

山梨市商工会は、山梨市経済に及ぼす環境変化並びに山梨市民の生活に対する影響を検討した結果、この出店計画ではあまりにも影響が大であり併せて、郊外地域への出店であることも助案すると、山梨市の将来の発展に危惧の念を抱かざるを得ません。

一般的に、大型店の店舗面積シェアが五十%を超えると、地域店舗、商店街の経営が難しくなり、六十%超になると経営が困難になると言われております。

山梨市の状況をみると、大型店の占有率で類似する他都市と比べても高く、四十四、五%(平成十六年度統計値を基に当会調査)ありますが、計画されている大型店が出店すれば、このシェアは約六十、二%を占めることと予想されます。

一方、当市と隣接する笛吹市石和町地区での大型店占有率も年々上昇し非常に高い地域となっており、このことは、山梨市への大型店出店でも必ずしも消費購買力流出比率の抑止に繋がらない可能性があり、以上から、山梨市における店舗面積は、既に飽和状態にあると想定され

商工会は、会員事業所の「経営革新」を支援します



山梨市への両大型店計画が実現することとなると、既に過剰である売場面積がさらに拡大され、限られた商圏の中で大型店間の競争が熾烈を極め、結果的に大型店を含めた既存店の淘汰が進み、共存しながら栄々と努力を積み重ねて現在に至っている山梨市の商業者全体の経営、生活の基盤を破壊することになりかねません。

二、出店計画の規模と郊外出店が、山梨市のまちづくりにとつて効果的かどうか疑問です。

山梨市は、平成四年度の都市計画決定を受け、「自然と恵みと文化の香りが調和した街」フルーツフル・ガーデン・シティーをめざした、ふるさとの顔づくりモデル土地画整理事業を実施し、市の表玄関としての顔である駅周辺整備と中心市街地活性化事業等を推進しておられます。

また、駅周辺並びに中心市街地においては、商業者と中心市街地内既存大型店、商業者と住民が協働したまちづくりや商店街活性化への取り組みが行われ、山梨市民へこれまで以上の利便性や買物物の楽しさを提供するため、山梨市商業の魅力づくりへの取り組みをされています。

(裏面につづく)